

- ・瀬音／宮城道雄～諫早俊夫編
- ・ポロネーズ／ジュリアーニ
- ・シシリアーナ、カンタータ 156／バッハ
- ・ラルゴとロンド／カルリ
- ・アングラー・ジュマン／ソル

楽しませてくれるプログラムと、自身の編による「瀬音」など、意欲的なところもみせた。二人の音色は、それぞれ個性的な美しい音なのだが、時として溶け合わないこともある。伴奏パートを受けもった方がやや消極的になってしまったのが惜しまれた。

アンコールには良く知られている「七つの子」が奏かれ、なごやかなうちに会を閉じた。本格的な二重奏団として、今後の活躍を期待



したい。

篠原 正志

デボラミンキン バロックリュート演奏会

10月11日
新所沢公民館

「所沢サロンコンサートをすすめる会」主催による同演奏会は、この地域で初めてのバロックリュートの聴ける機会となり、熱心なファンが集った。当日は天候が悪く、楽器への配慮から一全音以上ピッチを下げて演奏さ

れたが、桜井浩一制作のリュートは決して音響の良くはない会場で十分に鳴り響いた。

曲目ではバッハのシャコンヌがギターファンには聴きものとなった。

柳貞子「スペインの歌」 —近・現代歌曲と民謡の夕べ—

10月18日
東京文化会館(小)

G. ロルカによる、スペインの民謡集—13曲、全曲で幕を開けた当夜のコンサートは、とても楽しいものであったことを、最初にお伝えしておこうかと思います。

開演のブザーが鳴りました。舞台には真赤な薔薇の花。ギターのアラウ氏を従えての登場です。カフェ・デ・チニータから始まったスペイン民謡集は約40分という長丁場です。終

り頃の「モンレオンの若者たち」では語りを入れて、日本語で歌ってくれました。とても楽しくとあつという間の前半のステージでしたが、どうも柳さんの柳節と呼んでいいものと、アラウ氏のギターが今一つしっくりと行ってないような気がしたのは私だけなのでしょう。というのは、この民謡はどうも酒でも飲みながら歌ったり、聴いたりする方が



似合っているのではないかと、そういう観念が私にはあるからです。アラウ氏のギターが洗練されていて、柳さんはテクニシャンだし、実に音楽的なんだけど、かえってそれが気になりました。

後半は、ギターファンにもポピュラーな作曲家の作品が続きます。J. トゥリーナやあのJ. ロドリゴです。中でもF. モンポーの2曲がとても綺麗でした。柳さんの声にもよくマッチしていたみたい。たゞピアノの方が、スペイン音楽独特の左右に振幅の大きいリズム感を完全に表現したとは、ちょっと言い難い気がするのが残念です。

アンコールの声に答えて2曲。そのうちの1つはアラウ氏の伴奏で、あのスペイン舞曲

五番です。ギターで聴き馴れた曲も、歌詩がついて歌っているのを聴くとすると、又違った感じで楽しいものでした。当夜のプログラムを書いておきます。 伊藤 誠

プログラム

Ⅰ ガルシア・ロルカのスペイン民謡集(全曲本邦初演)……モンレオンの若者たち(朗読付)・18世紀のセビリャーナス・ソロンゴ・ドン・ボイソのロマンセ・他 全13曲

Ⅱ スペイン歌曲とオペラのアリア
ファルカ／トゥリーナ、河の上に雨が降る／モンポー、黒人の歌／モンサルバーチェ、ロマンシーリョ／ロドリゴ、マハと夜うぐいす／グラナドス、"歌劇ゴイエスカス"より

樹と家族古楽コンサート演奏会

10月18日
狭山市民会館



ギタリストの立川叔男の主宰する中世音楽コンサートがリサイタルを開き、中世吟遊詩人の音楽、及びルネッサンス舞曲を16種の古楽器を使い演奏した。聴衆の大部分は親子連れで家族アンサンブルらしいなごやかな会であった。

●日本シリーズの度に思い出すのは、51年、阪急が宿敵巨人を7戦目にして破った時です。

御存知シリーズ男、足立投手が投げきり阪急の悲願を達成しました。その瞬間の、マルカーノにすがりついて泣く福本の姿はまさに男の号泣だったと思います。

しかし、それ以上に今も私が忘れられないのは、翌日各新聞にのった足立投手の「たかが野球じゃないかと思って投げた。」というコトバです。

すごいコトバではありませんか。ちがった見方をすればこういった乾いた哲学を持った選手がいたからこそ、阪急は勝てたのだと思います。私自身がとてもそういうコトバを生み出せない人種だから余計このコトバは忘れられません。

近鉄にもこういう精神の投手が一人いたら西本さんの体が、広島球場に舞ったのではないのでしょうか。

それにしても、王さん、長島さん、ゴクローさまでした。西武ニ来テ下サイ。 芳志戸

●「禁煙のすすめ」先日しばらくぶりで雲取山へ登ったところ、いつもは一休みしてもすぐには整わなかった息が、なぜかすぐもとにもどり我ながらビックリしました。久しぶりの山行ですし、普段特に身体を鍛えている訳ではないので、体力も落ちかなりの苦しさを覚悟していたのでよけい感じました。そんな訳で、その晩泊った奥多摩小屋の仙人にゴチソウんでいた酒もうまく最高の一泊二日でした。と結びたいのですが実は一緒にいった小学四年生の姪にハッパをかけられながらという場面もありまして……………

これは本当の話ですが、毎年寒くなると冷えていた手先が今年は禁煙している為でしょう、気になりませんよ。 坂爪

●最近海が近いせいか、海の小物釣りに凝っています。本牧魚港、国際埠頭、横浜市海釣り施設等がホームグラウンドで、時間を作っては自転車かよっています。今は極小アジから小アジ級を楽しんでいますが、旨い食べ方はシメアジ、作り方はシメサバ

最近、本誌のバックナンバーについての問い合わせが大変多くなりました。バックナンバーを御希望の方は、現全書留にて編集部までお申し込み下さい。(送料は一冊につき40円です)

と同じで、ワサビ醤油で食べます。左党、特に日本酒熱燗党にはこたえられない程に美味でしょう。

さてこの号が出る頃は何か釣れるでしょうか？カレイなんて望むところなんですけど…煮つけ、カラ揚げどちらも最高なんです……

連夜、釣具箱をあけて、あれやこれやと工夫するのが楽しみで、さらにそれがあたっては顔では大した事ない風に装いながらも(何せ大声を発する程の大物ではないので)、本当は歓喜の場で、独りでニンマリとなるわけです。 徳二

●最近読んだ本でのことです。— 春のたけのこと秋のまつたけは促成栽培ができないので旬にならないと味わえない。これは一見、待ち遠しく不便のようでありながら、その実、たいしたことなのではないでしょうか。真冬の胡瓜や茄子などは形骸のみあって真味の薄いもの……。—

ほんとうにどこにもそうした形骸ばかりのものがあふれていて、大切なものは隅に押しやられています。この号を印刷に廻したら秋を捜しに出てみたいと思っています。 片岡

●宇宙の誕生から今までを一年間とすると、人類の出現は一時間半前、有史となると数十秒前だそうです。想像もつかないくらい長大な宇宙の歴史の中では、現代科学の進歩の目覚ましさに驚く反面、音楽なんて実に素朴に思えます。それがまた実に楽しい気さえます。 前川

●この夏、みごとに減量に失敗。悩むうちに馬肥ゆる秋。演奏会で神経を使えばやせると思いきや、さにあらず、……症状。神経性肥満症……。 モロ

月刊 ギターニュース
 昭和55年12月1日発行
 発行所 社団法人日本ギター連盟
 〒164 東京都中野区中野
 2-21-4
 TEL 03(383)1819
 発行責任者 荘村正人
 編集責任者 芳志戸幹雄
 印刷 刷銀座印刷
 定価 200円

音楽する喜びをあなたに

—ギターラ社にお任せ下さい—

大衆ギター
 国産手エギター
 輸入高級ギター
 リュート、ピエラ
 チェンバロ
 バイブオルガン
 リコーダー
 ヴィオラ・ダ・ガンバ
 トラベルソ
 他古典楽器
 楽譜・弦・備品



ギター教室
 *クラシック
 今野有二(休)
 篠原正志(休)
 浜田三彦(休)
 小山勝(休)
 リコーダー教室
 大竹尚之(休)
 飯室謙(休)
 品川治夫(金休)
 チェンバロ教室
 秋光豊子(休)
 及川真理子(休)
 入会随時
 初心者歓迎



ギターラ社 〒150 東京都渋谷区渋谷1-23-21 ☎(03)409-3395
 東京古典楽器センター 〒150 東京都渋谷区渋谷1-23-19 ☎(03)409-3396